

## 幼児の発達学習における絵本の影響

06I4172 森下 裕

### 1. 児童サービスの概要と歴史

図書館の児童サービスは 1903 年山口県立図書館の児童室開設が最初といわれ、戦争で中断したものの、戦後多くの図書館で児童室の設置などが進んだ。しかしこれらは乳幼児を対象としていなかった。

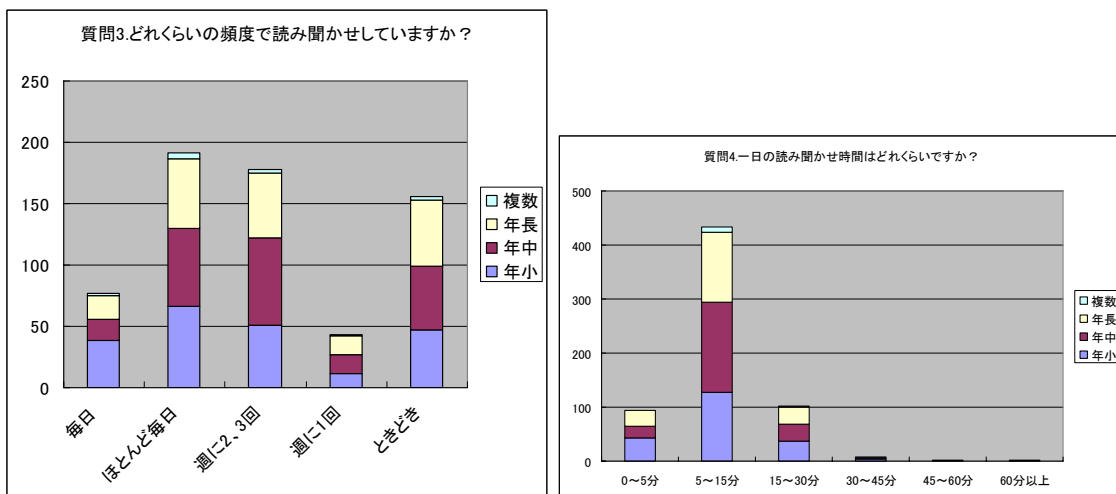
1992 年に英国で始まった新生児の保護者に絵本を渡すブックスタート運動が 2000 年に日本にも伝えられ、地方自治体と図書館の協力により広がった。また 1960 年頃からは鹿児島県立図書館長であった椋嶋十らの提唱により、絵本読み聞かせが始まった。

### 2. 家庭における絵本読み聞かせの調査研究

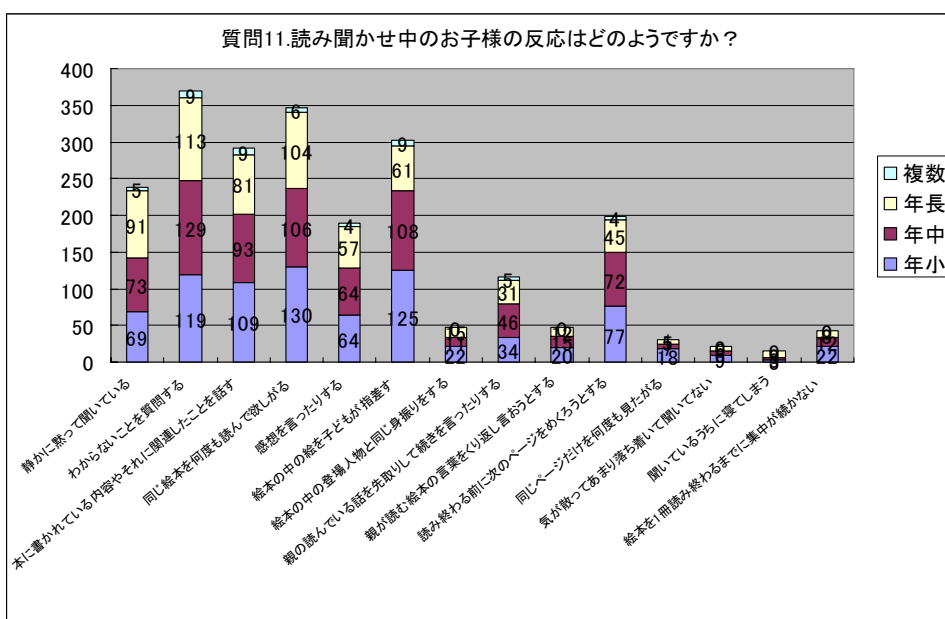
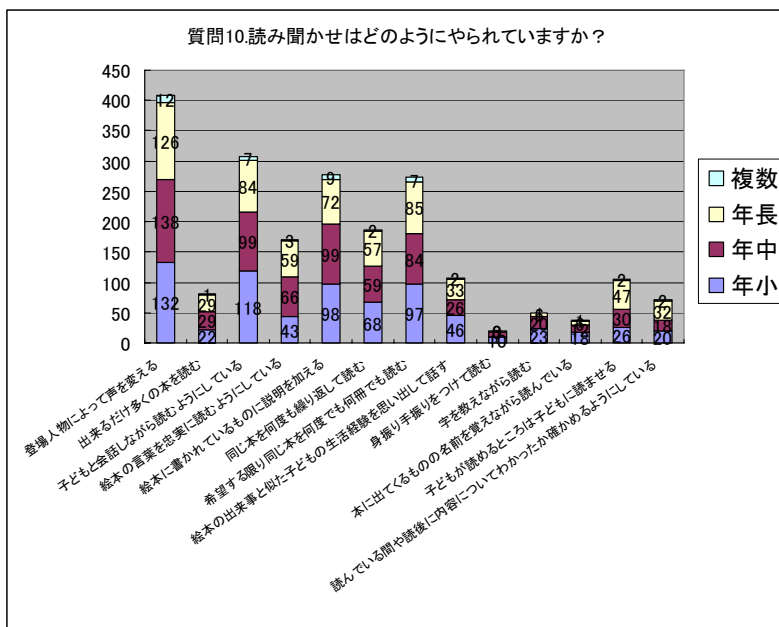
横山らは、3 歳児から 5 歳児にかけて幼稚園児の家庭における絵本体験とその影響についてアンケート調査で追跡調査をおこなった。蔵書数は 3・4 歳にかけて急激に増加したが、読み聞かせ頻度は減少、蔵書の種類や読み聞かせ中の態度にも変化があった。

### 3. 調査

横山らの調査に準じて愛知県名古屋市の幼稚園 6 園を対象に、幼稚園に幼児を通わせている保護者に対してアンケート調査をおこなった。配布数 1460、回収数 689 (47.2%) であった。その結果、乳幼児の時から絵本に触れ週に 2・3 回以上、0～30 分の間で主に母親や父親に読み聞かせしてもらっているという姿がうかがえる。絵本の蔵書数は 20 冊以上の家庭がほとんどであり、入手方法は、書店で購入するか、幼稚園で月極め購読、図書館、幼稚園で借りるなどである。



登場人物によって声を変えたり、子どもと会話しながら工夫して読んでいる。子どものほうは、わからないことがあれば質問したり、本に書かれている内容について話したり言語的に活発に場面に参加している。



#### 4. 考察

読み聞かせ頻度、蔵書数の増加、読み聞かせ中の態度など、横山の調査と類似の結果が得られた。家庭における読み聞かせの現状についての有益な知見が得られた。